

平成25年度和歌山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業
「高次脳機能障害支援関係職員等研修会」



- 1 日時 平成25年10月12日(土) 13時30分～16時30分
- 2 場所 上富田町文化会館 小ホール
西牟婁郡上富田町朝来758番地の1 電話 0739-47-5930
- 3 参加者 医療・福祉・介護・就労関係者、家族会等
- 4 内容
講演1 13:35～14:30
「ともに学びながら歩いていく～高次脳機能障害の地域生活支援」
障害者支援施設工房「羅針盤」施設長 山河 正裕 氏
講演2 14:40～16:30
「高次脳機能障害のリハビリテーションについて」
独立行政法人国立成育医療研究センター
リハビリテーション科医長、発達評価センター長 橋本 圭司 氏

講師紹介

◇ 山河 正裕氏

障害者支援施設工房「羅針盤」施設長

平成7年より大阪府下で初の中途障害者作業所の増設をすすめられ、平成10年豊中市内に工房「羅針盤」を設立。

平成16年 障害者生活支援ステーション・ソレイユを設立、平成23年 第2工房「羅針盤」を設立。また、平成24年 関西初の高次脳機能障害に特化したケアホーム「らしんばんの家」を設立されました。

工房「羅針盤」は、人生半ばで、ある日突然、病気や事故などで障害を負った中途障害の方の支援施設です。一人でも多くの方が生きがいと希望を持って暮らしていける街づくりを目指して、市民や関係機関と連携しながら支援施設の更なる充実と増設に精力的に取り組まれています。

◇ 橋本 圭司氏

リハビリテーション専門医、医学博士。

平成10年3月 東京慈恵会医科大学医学部卒業。

同大学リハビリテーション学講座にて臨床・研究に従事され、東京都リハビリテーション病院、神奈川リハビリテーション病院で数多くの高次脳機能障害の治療をされ、平成21年2月より国立成育医療センターリハビリテーション科医長を平成23年5月より発達評価センター長を務められています。

神経外傷や脳認知科学に関する先端研究に従事される一方で、急性期から回復期、そして慢性期における地域リハビリテーションにおいて、後天性脳損傷による高次脳機能障害治療の最前線でご活躍されています。

主な著書に『高次脳機能障害 どのように対応するか』、『高次脳機能障害がわかる本』『生活を支える高次脳機能障害リハビリテーション』などがあります。

- 5 定員 100名 先着順。申し込み締め切り10月1日(火)定員オーバーした場合のみ、こちらから連絡します。申し込み方法は、ウラ面をご覧ください。
- 6 なお、当該日の午前10時時点で和歌山県内において「大雨警報」もしくは「暴風警報」が発令中の場合は中止といたします。

高次脳機能障害支援関係職員等研修会

高次脳機能障害とは

脳卒中や交通事故や転落事故等で脳の損傷を負うことにより、昔のことはよく覚えているのに新しいことを覚えられない等の記憶障害、すぐ飽きる、集中力が続かない等の注意障害や怒りやすい泣きやすい暴力的になる等の行動と感情の障害などが現れる障害です。この障害は外見からはわかりにくいことが多いため、当事者・家族だけでなく周囲の人々が困惑することが多くみられます。高次脳機能障害の方が安心して地域で暮らしていくためには、医療従事者、障害福祉・介護サービス事業者、自治体職員、就労等の家族・当事者の方と接する関係者が適切な知識を共有して支援していく必要があります。

そういったことで今回、高次脳機能障害支援普及事業の一環として、医療・福祉・介護・就労機関等関係職員の方を対象に、高次脳機能障害の診断やその対応にかかる基礎的な知識を理解し、高次脳機能障害当事者とその家族を地域でいかに支援するかを学ぶことを目的に研修会を開催します。



お申し込みは、ファックス、もしくはEメールで参加者名・所属・職種・電話番号・ファックス番号・Eメールアドレスをご記入のうえ、送信ください。

073-446-0036

ファックスでのお申し込み

(この表をそのまま送付ください)

申し込み締め切り 10月1日(火)

参加者ご氏名 ※複数の氏名を記入していただいても結構です	所属・職種 ※保健・医療・福祉等の関係者の方は必ずご記入ください	手話通訳や車いす等の配慮等が必要な場合は記載してください
電話・FAX番号	Eメールアドレス	
☎ FAX		

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 障害者支援課
TEL : 073-445-7314 FAX : 073-446-0036
E-mail : e0404025@pref.wakayama.lg.jp